

令和 6 年 9 月 17 日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（答申）

令和 6 年 7 月 29 日付け、6 教教環第 24 号で諮問がありました「浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン」については、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」の趣旨を踏まえ、次の点に留意して取り組みを進めて下さい。

- 1 両校がそれぞれ「コンパスぶらん」（第 4 期名古屋市教育振興基本計画）に基づいて行っている教育方針を融合しながら、子どもたちの成長を育んでいける学校づくりを進めること。
- 2 通学の安全対策を保護者や地域の声を聴きながら、関係行政機関と連携して着実に進めること。
- 3 「子ども中心の学び」の実現を進め、将来を見据えた様々な目的に活用できるような施設整備を進めるとともに、工事の際には周辺施設や住民に配慮を十分に行うこと。また、跡地活用について関係部局と連携し、校舎の改築と並行して検討すること。

なお、上記の留意点を踏まえた別紙 1「浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（答申）に係る配慮事項について」の事項にも配慮しながら、取り組みを進めて下さい。

添付資料

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（答申）に係る配慮事項について（別紙 1）

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（諮問）（別紙 2）

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（答申）に係る配慮事項について

1 新しい学校づくり

- ・子どもたちの社会性や協調性を伸ばす意味からも、望ましい学校規模が確保されるよう、しっかり進められたい。
- ・両校がそれぞれ「コンパスぷらん」（第4期名古屋市教育振興基本計画）に基づいて行っている教育方針を融合しながら、子どもたちの成長を育んでいける学校づくりを進められたい。
- ・名古屋の新しい学校教育を発信するような学校となるよう、進められたい。

2 通学の安全

- ・通学路の安全対策や暑さ対策など保護者や地域の声を聴きながら、関係行政機関と連携して、しっかりと進められたい。

3 施設整備の方向性

- ・「コンパスぷらん」（第4期名古屋市教育振興基本計画）に基づく「子ども中心の学び」の実現に向けた対応ができるような施設整備を進められたい。
- ・少子化を踏まえ、様々な目的に活用できるような設計となるよう保護者や地域の声を聴きながら、進められたい。
- ・校舎改築の必要性について保護者や地域へ丁寧に説明を行われたい。
- ・整備工事の際には、車両の搬出入、騒音など周辺施設や住民への配慮を十分に行いながら進められたい。
- ・跡地活用について関係部局と連携し、校舎の改築と並行して検討されたい。

6 教教環第 24 号
令和 6 年 7 月 29 日

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志 様

名古屋市教育委員会

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

みだしのことにつきまして、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
条例（令和元年名古屋市条例第 16 号）第 2 条の規定により別添のとおり諮問
いたします。

浮野小学校と平田小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

1 取り組みを行う学校

（1）対象校：浮野小学校（西区）

①選定理由

浮野小学校は小規模校であり、今後も小規模校が継続する見込みであることから、取り組みを行う学校として選定する。

②学級数・児童数（令和6年度）

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級数	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	3学級	9学級
児童数	34人	24人	16人	27人	24人	18人	10人	153人

※特支：特別支援学級

③未就学児数（令和6年度）

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	14人	16人	28人	22人	17人	31人	128人

④学級数及び児童数の見込み

区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
学級数	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級
児童数	143人	155人	141人	135人	137人	129人	106人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

⑤沿革

昭和48年4月 平田小学校分校として開校

昭和50年4月 浮野小学校として開校（平田小から分離新設）

(2) 相手校（関係校）：平田小学校（西区）

①選定理由

○浮野小学校と平田小学校は、平田中学校区の中にある。

○平田小学校から浮野小学校が分離新設された経緯がある。

②学級数・児童数（令和 6 年度）

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	合計
学級数	4 学級	4 学級	3 学級	3 学級	3 学級	3 学級	2 学級	22 学級
児童数	92 人	100 人	101 人	93 人	89 人	82 人	7 人	564 人

※特支：特別支援学級

③未就学児数（令和 6 年度）

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	52 人	92 人	77 人	73 人	76 人	89 人	459 人

④学級数及び児童数の見込み

区分	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
学級数	20 学級	19 学級	18 学級	18 学級	18 学級	18 学級	17 学級
児童数	557 人	565 人	551 人	529 人	501 人	487 人	445 人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

⑤沿革

昭和 42 年 4 月 山田小学校分校として開校

昭和 43 年 4 月 平田小学校として開校

2 取り組みの方法等

(1) 取り組みの方法

浮野小学校と平田小学校を統合する。

(2) 統合場所

現在の平田小学校の場所を統合場所とする。選定理由は、以下の通りである。

○統合後の通学区域として中心に近い平田小学校が最適である。

○平田小学校を統合地とした場合、両学区での通学距離が概ね 2 km以内となる。

※通学距離（最も遠い地点からの距離）

浮野学区（丸野二丁目～平田小学校 1.3 km）

平田学区（円明町～平田小学校 1.2 km）

(3) 統合校の規模

①統合を想定した場合の学級数及び児童数の見込み

区分	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度
学級数	25 学級	25 学級	24 学級	24 学級	22 学級	22 学級	20 学級
児童数	700 人	720 人	692 人	664 人	638 人	616 人	551 人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

②通学区域内の未就学児数（令和 6 年度の未就学児数合算）

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	66 人	108 人	105 人	95 人	93 人	120 人	587 人

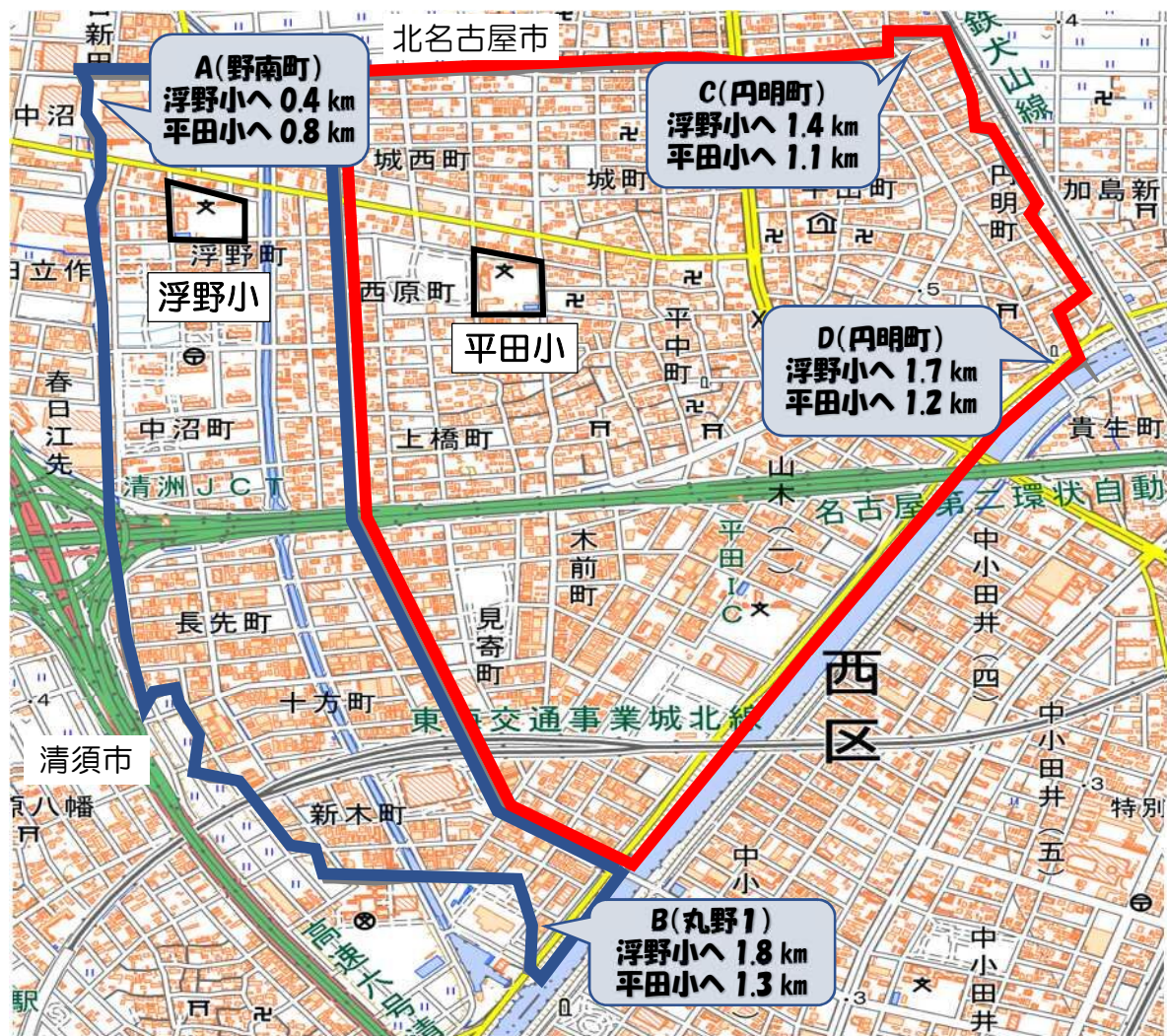
3 通学区域等

(1) 通学区域

新しい通学区域は、現在の浮野小学校及び平田小学校の通学区域とする。

(2) 通学距離

区分	現状の学区	現状の通学距離	取り組み後の通学距離
A(野南町)	浮野学区	浮野小まで約 0.4 km	平田小まで約 0.8 km
B(丸野1)	浮野学区	浮野小まで約 1.8 km	平田小まで約 1.3 km
C(円明町)	平田学区	平田小まで約 1.1 km (参考) 浮野小まで約 1.4 km	
D(円明町)	平田学区	平田小まで約 1.2 km (参考) 浮野小まで約 1.7 km	



※この地図は、地理院地図（GSI Maps）を名古屋市教育委員会事務局教育環境整備課が加工して作成したものです。

(3) 安全対策

統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組む。

(取り組みの例)

信号機や歩道橋の設置状況を踏まえた通学路の検討、歩行者用信号機やガードレールなどの安全施設設置の検討、注意標識設置の検討、交通指導員配置の検討、地域ボランティア等見守り活動への協力依頼や実施検討、通学練習会実施の検討等

4 施設整備の方向性

統合にあわせて、現在の平田小学校の校舎等を全面的に取り壊し、新築する。

イメージ図



5 今後のスケジュール（想定）

統合校を新築により整備する場合、児童の安心・安全な学校生活が確保できるような学校運営等を前提とした検討が必要となる。これまで新築による校舎整備を行った統合校（ほのか小学校、笹島小学校（笹島中学校との併設）、なごや小学校、たかしま小学校）では、いずれも工事期間中、児童等は一時的に通学場所を変更している。

下のフローチャートは、これまでの事例を踏まえ、想定されるスケジュールである。

